日本衛生動物学会

The Japan Society of Medical Entomology and Zoology

学会ウェブサイト　www.jsmez.gr.jp

学会沿革

1943（昭和18）年　「日本衛生昆虫学会」発会式
1950（昭和25）年　「日本衛生動物学会」に改称。学会誌「衛生動物」発刊
1951（昭和26）年　37番目の分科会として日本医学会に加入
現在に至る

“虫”の写真があります。苦手な方はご注意ください

学会概要

日本の衛生環境は戦後著しく改善されてきたものの，根強く国内に分布する虫，グローバル化に伴う外来生物の侵入，新興・再興感染症の発生など，衛生動物学が担うべき課題は絶えません．本学会には，衛生動物およびその媒介感染症に関して，基礎的研究から，防除技術・薬剤の開発，海外有病地での調査および技術協力，疫学対策の実践まで，様々な分野の研究者が集結し，広範かつ多角的な研究が進められています．ここでは衛生動物の例をご紹介します．

脚や手に原因不明の虫刺され ⇒トコジラミかも

種　名　トコジラミ（別名：南京虫）
分　類　昆虫綱　カメムシと同じグループ
体　長　5～8mm（成虫）
習　性　日中は室内の隙間などに隠れ、夜間寝ている人に寄ってきて吸血する
被　害　強いかゆみ
疫学的問題点・国内外で増加傾向
・殺虫剤の効かない個体の発生

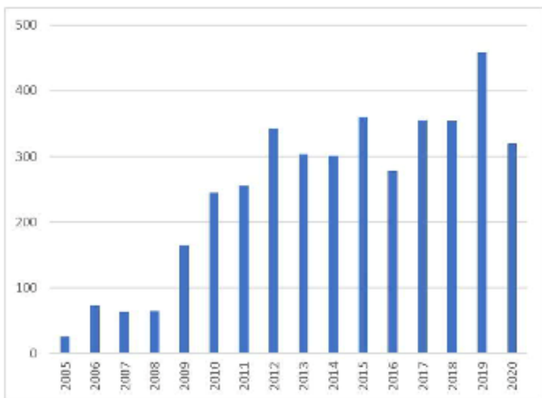
成虫

吸血中　満腹直前

敷物の細い隙間でも繁殖

写真提供：夏秋優博士

東京都における トコジラミ相談件数



【参考】東京都福祉保健局ウェブサイト

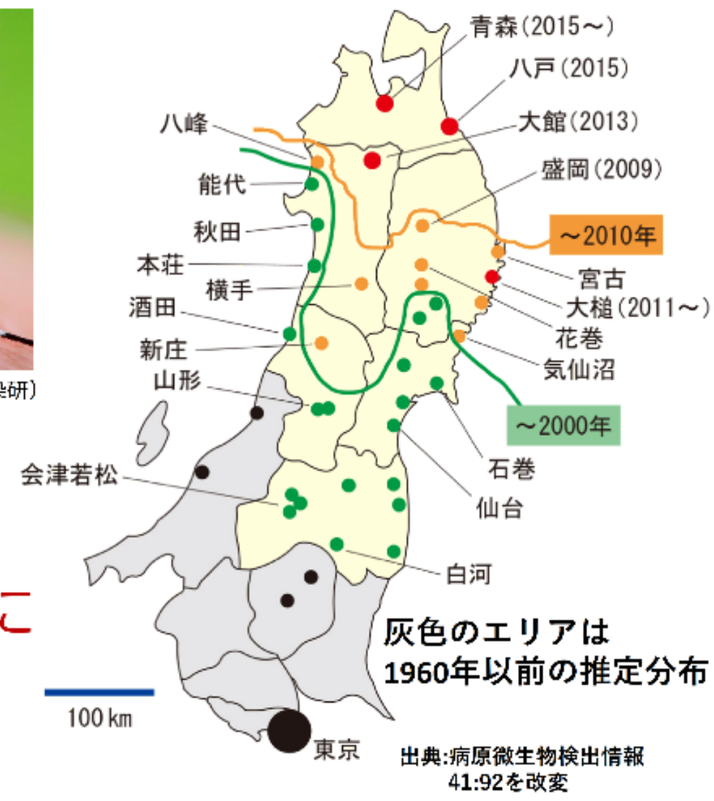
本学会学術集会や学会誌では、症例、疫学・生物学的研究、防除法に関する研究が報告されています

疾病媒介蚊の分布拡大

種　名　ヒトスジシマカ
分　類　昆虫綱　ハエ目　ヤブカのグループ
体　長　4.5mm程度（成虫）
媒介疾患　デング熱、チクングニア熱　他
※ただし、現在、上記疾病の病原体は国内に定着していないと考えられる

写真提供：葛西真治博士（感染研）

北関東以南だったヒトスジシマカの分布が半世紀の間に青森にまで拡大しました（右図）



海外から持ち込まれたウイルスを国内の蚊が媒介することで発生した2014年のデング熱国内集団感染は、疾病媒介生物の生態を監視することの重要性を示す事例でした.

衛生動物とは：ヒトの衛生に害を及ぼす動物全般

＊ 寄生や刺咬または毒による直接的な害（例：蚊、シラミ、マダニ、ハチ、毒ヘビ）
＊ 自然毒を有する有害食品としての害（例：フグ、貝類）
＊ 疾病を伝播することによる間接的な害
　機械的伝播（例：ハエ、ゴキブリ）
　生物学的伝播（例：蚊→マラリア、マダニ→日本紅斑熱、ネズミ→ペスト）